

平成24年2月27日

(社) 兵庫県柔道整復師会
学術部長 根來 信也

平成23年度合同防災訓練参加報告書

この度、上記合同防災訓練に参加し、避難者の応急処置ならびに地域住民に対して災害時における応急処置講座を開催しました。訓練ならびに講座の活動報告をいたします。

この訓練は、当初、昨年9月に予定し、台風12号の接近のため延期したものです。

記

日 時：平成24年2月26日（日）9時～12時（集合8時）

場 所：朝来市立山口小学校

主 催：平成23年度合同防災訓練実行委員会（兵庫県、豊岡市、養父市、香美町、新温泉町、朝来市で構成）

参加機関：約70機関（消防、警察、自衛隊、国交省、ライフライン関係機関、応援協定締結団体等）

参加者：根來信也（学術部）・田中和明（学術部）・藤井敦志（学術部）・山下純子（学術部）・西村耕作（但馬支部）・平山克士（但馬支部）



図1. 避難所（山口小学校体育館）



図2. 応急処置室メンバー一同（柔道整復師会・看護協会）

【応急処置】

前線による大雨が続き、朝来市内の円山川の氾濫や、各所での土砂崩れにより、大きな被害が発生したとの想定で避難準備情報が発令され、住民避難勧告・発令により、避難所（山口小学校）への移動が始まり、避難住民随時受け入れが9時に始まるため、本会関係者は8時には避難所の山口小学校1階『応急救護所』にスタンバイした。

要応急救護者（模擬患者6名）の内、3名（男性2名、女性1名）の要応急救護者（肩関節脱臼・橈骨遠位端部骨折・足関節捻挫）に対応を行った。要応急救護者の中に聴覚障害者がおられ、筆談・手話（通訳）で問診から応急処置まで行った。



図3. 聴覚障害者2名に対する対応



図4. 足関節捻挫の聴覚障害者に対する対応（西村）



図5. 橈骨遠位端部骨折に対する対応（田中・藤井）



図6. 井戸知事 現場視察

表1 傷病者一覧

No.	性別	年齢	症状・傷病名	備考
1	男性	?	右足関節捻挫	聴覚障害 前距腓靭帯損傷（Ⅱ度）
2	男性	62	右橈骨遠位端部骨折	転倒による
3	女性	?	左肩関節前方脱臼	40歳代・転倒による
4	男性	?	高血圧	聴覚障害
5	男性	?	不整脈	
6	女性	?	脳梗塞	



図7. 肩関節脱臼に対する対応（平山）



図8. 肩関節前方脱臼に対する固定（山下）



図9. 難所炊き出し訓練（体育館）



図10. 看護協会による避難所での注意事項

【応急処置講座】

第1回目： 9時50分～10時30分

第2回目： 10時40分～11時20分

※参加者地域住民25名×2回=50名

内容：①RICE（ライス）処置とは？

②災害時のケガの応急手当

→ 直接圧迫止血法

ケガ（骨折など）の固定法

③三角巾の活用法

④質疑応答



図11. スーパー手提げ袋による三角巾の代用法



図12. 井戸知事教室視察



図13. 新聞紙を用いた固定作成

【まとめ】

昨年度より訓練に参加しており、学術部が中心となり資料を作成した。橈骨遠位端部骨折・肩関節前方脱臼・足関節捻挫の負傷者の応急処置を行った。その際、循環・神経障害や鑑別を十分に行った上、整復・固定を施し、固定終了後には同じく循環・神経障害の有無確認ならびに日常生活についての指導を行った。

また、応急処置講座では、地域住民に対して RICE 処置の基本を説明し、身近にあるスーパーの手提げ袋や新聞紙などを用いて、固定実習を行った。

今回は昨年度の反省点である女性負傷者の対応は女性会員が固定を行い、かつ処置を行う場所についても配慮した。そして、東日本大震災における救護ボランティア活動の経験を看護協会とともに地域住民にフィードバックできたことは地域防災力向上に大変有用であった。

災害時には行政関係・病院関係・その他、横の連携が重要であり、特に避難所には保健師・看護師が中心となり巡回を行うため、看護協会と更なる連携が必要である。

2月には加古川市と「応急救護活動における協定」を締結し、ますます災害時における防災訓練が重要である。次年度は当会で、防災力向上事業（AED講習会含む）を企画していきたいと考える。そして、訓練に参加し、問題点を改善しながら大規模災害時における柔道整復師の災害医療ボランティア活動の充実を図っていきたい。